

評価項目の取り組み状況

※結果は、4段階評価の平均を表す

A（十分達成されている）…4	B（達成されている）…3
C（成果が十分でない）…2	D（取り組みが不十分）…1

（1）学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める

【2. 81】 A… 6% B… 72% C… 19% D… 3%

昨年【2. 50】

○肯定的な意見

- ①協同学習を柱にして、各教科で日々授業改善に取り組んでおり、生徒の「友だちと一緒に活動したい・教えてもらって分かるようになりたい」という意欲がよく伝わってくる。昨年度からの取り組みの成果が非常によく現れていて、教師自身ももっと学びたいと気持ちになっている。
- ②授業中のようすを見ると、全体的に落ち着いていると感じる。学校全体の取り組みがずいぶん良くなり、職員の授業改善に対する意欲も高く、生徒にもそれらが伝わっている。
- ③授業評価Aをめざしてがんばる姿が見られた。「協同の理念」に基づいてペアやグループを効果的に取り入れている授業が多いように思う。課題提出も生徒間で意識されている。
- ④生徒のアンケートや会話の中でも協同学習に対して肯定的な意見が多く、学習活動に参加できている生徒が多い。互いに意見を聞き合って、自分の考えを深めようとする姿がある。
- ⑤生徒の主体性を伸ばす授業が多く、さまざまな場面で話し合いや協同的な作業が組み込まれている。生徒同士の関わり合いはとてもよくできている。
- ⑥校内の研修や授業研究会が充実していて、忙しい中でも計画的に校内研修会を実施し、新しく赴任した職員も、協同学習の方法等を学ぶことができてすぐに実践することができている。
- ⑦それぞれの職員が生徒が主体的に取り組むための工夫を授業で行い、生徒も活動的に取り組んでいる割合が多いと感じる。生徒の教科係が自ら教師を呼びに行く、課題を伝えるなど、生徒が動くことから始まるので自主的に学ぶ準備ができている。

◆課題を含んだ意見

- ①協同学習を意識し、授業をつくり上げていこうとする雰囲気はあるが、実際どのように取り組ませるかがはっきりとせず、迷いながら指導に当たっている状況がある。
- ②授業では生徒自ら学びを探究する姿が多くみられるが、家庭学習という点においては、十分な指導が行えていないと感じる。予習復習が定着していない。課題忘れや答えの丸写しがある。

- ③課題提出に対する意欲も高くなっていると感じる一方で、授業中の姿勢や授業規律など主体的な学びをサポートする姿に差があると感じる。受け身的な態度で行っているように思う。
- ④定期テストで英語数学が20点以下の生徒に対する支援が十分ではない。二極化し固定化している。各種診断テスト、NRT、定期テスト等の分析・活用についての取り組みの工夫が必要。
- ⑤授業に向かう際に、準備物がそろわなかったり、2分前着席を守ろうという意識が十分でなかったりする。家での取り組みが学力に結びつくことがわかっていないように思われる。
- ⑥授業の中で互いにうまく関わり合いができる生徒も多いが、私語や学習中の姿勢、授業中に伏せてしまう生徒や自習などの際に集中して取り組めない生徒がいる現状がある。
- ⑦まだまだ教員の指示待ちだったり、やらされている感のある生徒もある。学ぶ意義や価値を感じられるようにしたい。

(2) 温かな人間関係づくりを大切に、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるように努める

【2. 81】 A…13% B…56% C…31% D…0%

昨年【2. 53】

○肯定的な意見

- ①全校的視野に立った生徒会執行部のリーダーシップ、学年集会による学級委員のリーダーシップが発揮され、親和的なムードが漂う。生徒会活動、部活動、各種行事（コロナのために少なくなってしまったが）等、さまざまな場面で生徒の目に見える活動が行われていた。
- ②生徒の笑顔の多さや教室での温かな人間関係がよく伝わってくる。全体的に良好な関係が構築できている。部活動での元気な姿や文武両道に心がけた生活を送っている生徒が多いと感じる。
- ③生徒会活動にも生徒の意欲を感じ、生徒が学校の一員として望ましい学校づくりをするという意識を、生徒会活動をとおして持たせることができていると思う。
- ④それぞれの学年、学級が仲間づくりに取り組み、それぞれのカラーを出しながら、熱心に学級経営に取り組み、全体的に見るとどの学年も落ち着いて生活できている。
- ⑤朝学活で「がんばりたいこと」、終学活で「自分のがんばり・仲間のがんばり・ありがとう」を伝え合う短学活を行っている。互いに高め合い認め合う場となっている。言葉として相手を思う気持ちが伝わってくる姿も増えた。個人差はあるが他者を大切にしている態度は身についてきている。
- ⑥挨拶や学級での声かけや関わりの中で成長が見られる。学年でのまとまりもある。挨拶など、コミュニケーションが上手にできていて、互いに支え合い、助け合う姿が見られる。
- ⑦生徒会や学級委員などが中心となり、学級、学年、学校を良くしようと、アイディアを出し合ったり、声かけをしたりしている。自分たちで目標を設定して、それに向か

って全員で努力するという経験をどんどん積ませていきたい。

- ⑧コロナで先が見えない中、生徒会による執行部企画や学年集会での学級委員による進行など、生徒が主役となる場面が多くあった。誰かのために動くことができる生徒が多いように感じる。

◆課題を含んだ意見

- ①各クラスでさまざまな取り組みは行われているように思うが、自分の意見を伝えることに躊躇したり、人を傷つける言動がある。あいさつや返事など人任せにする生徒が多い。
- ②一番気になるのが相手の気持ちを考えないような発言が聞かれることで、温かな人間関係づくりをするために必要なのが日々の言動だと考える。人をからかったり、嫌がることを平気でしたりという雰囲気もまだ感じられる。集団に入れない生徒が目立つ。
- ③細かなルールや一人一人の行動にまだ浅はかな部分や徹底していないところがあり、生徒会の取り組みが終わると、積極性がなくなってきた。
- ④一部の生徒の言動により傷つく生徒がいる。生徒はもちろん教職員も、相手を思いやるコミュニケーションスキルを身につけることが大切。ダメなことをダメと言えない空気がまだある。
- ⑤温かい人間関係づくりは、数値化した活動ばかりではなく言葉の中にある。新しい多様性を認める時代に入っていると考えられる。言葉や行動で人間関係づくりができる雰囲気がほしい。
- ⑥男女問わず仲良く関わる一方でトラブルも出てきている。その中で、よりよい人間関係づくりを学ばせたい。学級や学年内では仲間づくりを進めている場面が多く見られるが、地域とのつながり(郷土学習など)については、羽合、東郷、泊で充実度が異なるように感じる。

- (3) 保護者や専門機関等とのつながりを深め、長期欠席が生まれないように努める

【2. 8 1】 A… 9 % B… 6 6 % C… 2 2 % D… 3 %

昨年【2. 4 3】

○肯定的な意見

- ①3年における欠席者の激減は、支援会議の積み上げによると思われる。チームとして連携しながら生徒と保護者にかかわってきた。「別室」を用意することで、心の居場所があった。コーディネーターが医療や福祉 SC,SSW 等専門機関担当者となつなげていただけるので心強い。
- ②支援会議が学期始めや状況に応じて行われている。前年度、不登校だった生徒が改善された面がある。各学年、担当を中心に外部と連携を取りながら動けている。支援会議の積み上げや SC や SSW との連携、相談室対応、保護者との信頼関係づくりなど日々の丁寧対応が取られている。
- ③学校内や教員だけで解決が難しい事案については、専門機関や子育て支援課、または児童相談所に相談したり、早めの家庭訪問やケース会議、支援会議を行うことができる。

- ④各生徒の状況を細かく把握し、何が最善の方法なのか、常に考えながら取り組まれている。定期的に不登校対策委員会を行い、生徒の情報を教職員全体で共通理解し、生徒一人一人に真摯に向き合う姿が伝わってくる。
 - ⑤長期欠席者が出席できるようになっており、SCやSSWと連携したり、他学年の生徒に関しても職員で情報共有したり、丁寧な対応が心がけられていると感じる。早期発見、早期対応のしくみができて、再登校できる生徒も出てきている。
 - ⑥前年度まで登校できなかった生徒が、自分のペースに合わせて登校できるようになった。専門機関等に入ってもらい、落ち着いて学校生活を送れている現状があつて保護者と密に連絡を取りながら生徒対応をしている。
 - ⑦学校生活に不安を持っている生徒に対して、担任だけではなく複数人で対応できる体制がある。
 - ⑧相談員や支援センターの先生等も積極的に関わってくださり、つながりができてきている。月例報告など定期的に不登校生徒の情報交流をしたり、ケース会議なども積極的に取り入れている。
 - ⑨昨年度欠席が多かった生徒も新たな気持ちでスタートできるような環境整備ができて、職員朝礼や職員会などでも学校として配慮の必要な生徒について全体での共有が行えたため、全職員が共通の意識をもって動くことができた。
 - ⑩不登校対応担当者の先生の細かいデータ管理や分析、外部支援者との情報交換を行っていただき、生徒個々の情報や方向性を共有させていただくことで、対応についての心づもりができる。
 - ⑪さまざまな生徒の生活環境や支援体制について、じっくりと考えながら念入りに支援会議を重ねてきていて、その結果が今の生徒一人一人に関わる支援につながっている。
- ◆課題を含んだ意見
- ①入学や進級のタイミングで、学級になじめずに登校しづらい生徒が何名かいた。そこから長期の欠席へとつながってしまったこともあった。
 - ②長期欠席が生まれないように、学年団や不登校担当で連携を図りながら対応しているが、現状として不登校の生徒が多く、保護者・専門機関等との連携がうまくいかないこともある。
 - ③対応や連携について「早期」という面では、学校としてさらに動きを早めていく必要を感じる。教職員間の知識や意識の個人差と学校としての方向性をどう調整していくか検討が必要。
 - ④情報共有をして連携を深めようと努力しているが、必要なときに必要な人に情報が届かないこともある。まだ欠席者が多く、今後も増加する心配がある。
 - ⑤支援会議の日程などが伝えられていなかったり、支援会議に保護者が来ないなどという実態もある。早めに保護者連絡や専門機関等に連絡をしていたらもっとよかったと思う場面があった。
 - ⑥教育相談など、生徒の不安や悩みを聞き取る時間の確保が難しい。長期欠席をしているわけではないが、相談室にいる生徒が少しずつ増えてきているのでそれぞれに対策をとる必要があるように感じている。

(4) 保護者・地域との信頼関係の強化に努める

【2. 6 6】 A… 6 % B… 5 9 % C… 2 9 % D… 6 %

昨年【2. 7 3】

○肯定的な意見

- ①各種たよりの発行や連絡等定期的に行われている。今年度は、コロナの影響によりさまざまな活動が自粛されたりしている現状があり、多少なりとも保護者との距離感において影響があるが、たよりやホームページによって情報提供に尽力されている現状は大変素晴らしいと感じる。
- ②一緒に学校の取り組みをしていこうとされる保護者も多く、開校2年目ではあるが保護者との信頼関係の構築についてはほぼ達成できていると感じる。ホームページや学校だよりを活用し、こまめな情報発信に取り組む姿が見受けられる。
- ③新型コロナウイルス感染症の影響で、PTAの会合も縮小されたが、可能な方法で行われている。文章の配布や、少人数でも会議を通じて各分掌の会を行ってきた。地域からマナーの指導に関しても、職員が迅速に対応を考え、行動に移ってことも地域の信頼関係を築いている。
- ④ミスの指摘等のクレームもあるが、同時に、先生方の「より多くの情報を伝えよう」という熱意や気概もあり、学校だより、ホームページの更新等積極的に実施している。
- ⑤保護者や地域の方も協力的なようすが見られ、他校のようすを聞いても湯梨浜中ではホームページや学校通信等で情報は随時発信されており、学校のようすを伝えようと努力をしている。
- ⑥意見や要望をいただいたときには、思いを的確にくみ取るように努めた。6月の参観日はとても良かったと感じる。家庭連絡を通じて、保護者の考えを聞き、それを指導に取り入れていた。
- ⑦一学期においては、参観日や学級懇談などが積極的には行うことができなかったが、限られた時間の中で、保護者と生徒の情報を交換することができた。
- ⑧保護者アンケートなどをとおして、保護者の意見を聞く機会を設けた。今年度に限っては、PTA 専門部の活動が困難であり、状況をみながらできることを模索するしかないが、交通安全指導などの取り組みは継続されている。

◆課題を含んだ意見

- ①コロナの関係もあり、学期末懇談で初めて顔を合わせて会話する家庭もあり、保護者とのつながりが少し薄くなっているような気がした。学級によって、学級通信の発行に偏りがある。
- ②コロナ禍の中で、保護者と意見交換する場がなかなかない。なかなか参観日や学校公開がなく地域や保護者の方は残念だったと感じた。保護者・地域ともに学校の現状を理解してもらえていない部分もあるように感じる。
- ③今年の状況であるからこそ、例年以上に保護者とながっていく意識をもって丁寧に判断、説明していくことができればと思う。保護者からの要望に応えられていないところがあり、自転車の乗り方やマナーなどで学校に連絡があった。
- ④コロナの関係で各種行事が中止となり、書面での報告、協議をおこなっているため学校の思いなどが伝わりにくい。2学期は運動会・文化祭・伝統芸能等地域の方々との

交流場面もあるので、信頼関係を深めることができる。

【今後の課題と具体的な取り組み】

1 主体的に取り組む生徒の育成

- ①予習したことを授業に活かす学習展開・復習状況の日々の確認・各教科における諸検査の分析に基づく指導・課題の取り組み方や、自主的に学習する方法を紹介する。
- ②協同学習を続けながら、弱さを抱える生徒には個別での対応を充実させていく。英語だけでなく数学も TT にする。それよりも少人数にして、徹底的に鍛える。個別の課題を出して積み上げる。
- ③今後も授業研究会等を通じて、教師個々の授業力の向上と生徒の学習意欲向上を図っていく。
- ④日々の授業を職員同士が遠慮なく見たり見てもらったりする。協同学習の職員研修と自己研修（長期休業中）・各種テスト他に関わる分析については、いつ、どういうメンバーで、分析したことをどう共有するかなどを取りまとめて、2学期に取り組みがスタートできるようにする。
- ⑤協同学習の定着を図ること、関わりあい、学びあいの意義を伝えながら生徒とともに職員全体の意識を高めること。各学級、各学年での取り組みの共有の場の設定が必要。
- ⑥教員が授業時間を超過せず、生徒がきちんと授業にむかえる環境をつくる。背面WBを丁寧に記入し、生活記録ノートに正しくうつす。家庭学習を習慣化させるために、毎日時間を生活記録ノートに記入する。テスト期間の課題を1度ではなく何度も取り組ませる。
- ⑦授業に向かえない生徒に対してまわりの生徒が関わっていく雰囲気をつくる。授業評価にもそういう部分を取り入れる。興味や関心をひく題材提示や発問などの工夫を重ねていく。
- ⑧1時間のみの取り組みを共有するだけではなく、単元をとおして「見通し」や「振り返り」はどのように取り組んでいるのか、具体的な方策を共有して良いものを取り入れたい。
- ⑨課題点検を迅速にし、生徒への声かけを行う。家庭で学習してきたことが授業の学習を深めるような予習課題を仕組む。取組や達成状況について、望ましい姿に照らして適切に自己評価させる。足りないことを自覚させる。探求したくなる課題の設定を工夫する。
- ⑩協同学習を推進し、自身の教科に活かしていくとともに、教科を超えて話しをしてさまざまな方法を実践していく。定期テスト前のように、家庭学習の時間を意識させながら日々取り組ませる。
- ⑪（最低：学年＋1時間）。学習道具を持ち帰り、自宅で学習する習慣をつけていく。視覚支援で、学習の流れだけでなく、説明なども簡単に書いておく。生徒が考えて動く場面を増やす。
- ⑫コロナが落ち着いたら、他の学校の実践例なども学び、授業に取り入れていきたい。各教科での授業の様子の共有できる機会を学期末以外で増やしていく。
- ⑬生徒全員が参加することのできる授業づくりを進める。教員がねばり強く声かけ、指

導をしていく。(全員が)授業に向かえる仕掛けを工夫していく。

- ⑭わからないことをすぐに調べられることができるように、iPad を一人一台持たせる。
そこで望ましい使い方を学ばせる。電子機器の正しい使い方を学ばせる授業に取り組む。
- ⑮家庭学習の定期的なチェックを行う。生徒が自ら主体的に行うことができる家庭学習の方法を示す。予習したことを授業にいかす学習展開・授業中にある生徒のつぶやきを大切に深い学びへ。
- ⑯各教科における諸検査の分析に基づく指導。「学んでよかった」と感じる成功体験を多く積ませることで、生徒がだんだんと主体的に動き始めるように思う。成功体験を積ませる工夫や、肯定的な声かけを意識的に増やしていきたい。

2 温かな人間関係づくりを大切に、生徒自ら魅力的な学校づくり

- ①コロナ禍の中で、行事やその内容の精選化・短学活の創意工夫(マンネリ化した班目標…前日の課題が活かされているか、班員の協力で達成できるものか検証)。各クラスでしている取り組みの継続。生徒会や学級委員を中心に、企画等で生徒の学校生活への意識を高める。また、日頃から、学級での生活等について振り返りを充実させ、よくしていこうという意欲を高められる学級の雰囲気。個々の対応、まずは学級内で認める・認められる、互いを大切にする気持ちを養う。
- ②2学期はさらに生徒を前面に出した活動を仕組んでいく。生徒が自分たちの課題を見つけ、その解決に向けて取り組んでいけるような取り組みを行っていく。基本的には現状の取り組みを継続させていくこと。その中でQUを活用したり、短学活を工夫させたりゆとりを持つ。
- ③学活、総合的な学習など、それぞれの学年で計画されていることが進んできているか見直して2学期に取り組む。前の学年からの積み残しがあれば確認し学年としてどう進めていくか検討する。
- ④「その場で伝える」、「間違っていることを許さない教員の姿勢や意識」が大切だと考える。取り組みの方法や関わり方に差がないよう、学年集会の中で伝えることや毎日の終学活での「ありがとうプロジェクト」の推進、学級通信などで保護者の方とも連携をとって行きたいと考える。
- ⑤トラブルが起こった際に、人が嫌がることをきちんと認識させるようにし、嫌なこともきちんと伝え合える関係性をつくる。授業中でもプラスの言葉がけをしたり、話を聞く時に相手の方に体を向けて話を聞いたり、温かい雰囲気をつくっていくように指導を行っていく。
- ⑥学年の各クラスが共通して取り組む内容を、もう少し統一してもよいと思う。同学年でもやり方の違う部分も見られる。学級集団や学年集団で協力して活動する場面を活かして仲間づくりを進める。・生徒会や学年・学級での取り組みは継続して、生徒主体の活動の場を確保していく。
- ⑦QUの分析や望ましい集団の具体的な姿を職員が共有する。マンネリ化しないよう、小さくても活動に変化を持たせて進化させていく。中期的な学級目標の達成状況の確認を全学級で行う。

- ⑧短期的な班活動の振り返りや定期的な学年集会などで達成状況を確認し成長の見通しを持たせる。自分の大切さとともに他の人の大切さがわかる学習に取り組む
- ⑨ルール徹底と、集団の意識を高めることが重要である。浅はかな行動を笑ったり、ともに盛り上がってしまう幼さを変えるべく、周囲の雰囲気を変える。朝週学活や授業間、休憩、美化などメリハリをつけて生活をする。そのために職員がきちんと教室に出る。
- ⑩生徒個々の対応を教員で共有し、皆が同じ声かけ、目線で対応できるようにする。生徒会企画だけでなく、学年や学級単位でも生徒が主体となって企画・実行できる場を増やす。学校生活や委員会活動、行事などで3年生の頑張る姿を下級生に見せて、湯梨浜中の形を引き継いでいく。
- ⑪生徒指導、学年指導、教科指導を含めて規律やルールの徹底を行っていく。これまで同様、各クラスで取り組むことができる活動を継続しておこなう。地域の活動に参加し、応援される中学校をつくる。(伝統的な踊り、体育祭で全校で同じものをするなど)
- ⑫日々の活動が見直せるように、課題を可視化する。班長や学級委員による学級の課題や目標を設定させる。学級においては、朝学活や終学活の時間に今日あったいいことなどを共有する。
- ⑬地域とのつながりについては、各地域の特色を生徒たちが知ったり、参加したりできる情報発信を行う。(実際に地域の人に学校に来ていただくなど)
- ⑭コロナ禍の中での行事やその内容の精選化、短学活の中で温かい言葉の交わされる雰囲気づくり。
- ⑮生徒自ら動くためには見通しをもつことが必要であると思う。人間関係づくりにおいても協同の理念のもと、共通の目標を共有し、どのように課題を達成するか「地図」を持たせるとよい。

3 支援に必要な生徒への対応

- ①委員会(特支、生徒指導、企画等)の定例化と協議事項の共有・徹底・事例研究会の実施・保護者とつながり続けて、信頼と期待をベースにしたかかわりをしていくこと。
- ②生徒と教職員が相談しやすい関係を築く。不登校対策委員会や支援会議の定期的な開催。役割分担を明確にし、専門機関等との連携の充実を図る。担任が中心となるのはもちろんだが、不登校担当や学年団で協力して対応を進めていく必要がある。
- ③生徒の発達や生徒のさまざまな症状、実態をどうとらえるか、基礎的な知識や判断力を身につけるための校内研修を実施する。校内の各種委員会同士の連携。「その場で伝える」、「間違っていることを許さない教員の姿勢や意識」が大切だと考える。
- ④取り組みの方法や関わり方に差がないよう、学年集会の中で伝えることや、毎日の終学活での「ありがとうプロジェクト」の推進、学級通信などで保護者の方とも連携をとって行きたい。
- ⑤担任・学年のみでの抱え込みの状態にならないよう、ささいなことでも相談をする気持ちを大切に、教員間でも頻繁に声掛けや相談しやすい雰囲気をつくっていくことに努力していきたい。

- ⑥生徒との教育相談を、5月などもう少し早い時期に行い、生徒が学級での不安を相談できるようにする。欠席者があった時の家庭連絡で、症状だけではなく次の日に安心して登校できるようなフォローを行う（課題の指示など）。
- ⑦新型コロナ対策を逆手にとり、長期欠席の生徒が家庭で学習を進められる手段が構築できると、学力保障につながるのではないかと思う。安易に劇的な変化を求めず今後もつながりをもつ。
- ⑧引き続きSCやSSW、全職員で情報を共有し、早期の丁寧な対応を心がける。校内会議、C4th、職員室での短時間での会話を大切に、情報共有・相談を密にしていく。
- ⑨家庭に過去の事例を示しながら具体的な進路目標をもつような連携を図る。コーディネートを計画的に進める。急な変更や参加者には計画的に事前に話しをしておく。
- ⑩相談室と連携を取りながら、生徒の登校を促す。登校しやすい日にちや時間等、生徒の状況を見極め対応する。相談室で過ごす生徒が多く、登校しても相談室内の個室が空いておらず、登校しづらくなっている生徒もいる。生徒が過ごせる部屋がもう少し増やせるとよい。
- ⑪生徒一人一人をきちんとみる余裕を持ちたい。教育相談期間は部活動停止などで時間を確保する。生徒が悩みや想いを相談しやすい関係をつくるために、普段からコミュニケーションを取る。
- ⑫生徒について教員間で話をして、その会話の中で他の先生や機関との連携が必要かどうかを考える機会にする。長期的な計画を立て、SCなどと連携をとりながら長期欠席をなくしていく。相談室や保健室に行く回数が増えている生徒をいち早く全体で共有し、早期に対策をする。
- ⑬委員会（特支、生徒指導、企画等）の定例化と協議事項の共有・徹底・SCなどの専門家としっかりと話をして傾聴する。保護者との信頼と期待をベースにしたかわりをしていくこと。

4 保護者・地域との信頼関係の強化に努める

- ①生徒を育てるという点でパートナー関係をつくること。教職員の負担にならない程度に学級通信等を発行し、無理のない範囲で継続させる。保護者との会話を大切に、家庭内の問題などについては、児相や子育て支援課などと連携を図りながら役割分担をして関わっていく。
- ②集まるのが難しい状況であるからこそ、個別に生徒、家庭と連絡を取り合ったり再確認したりする機会を設ける。活動、行事の変更や意味などを生徒自身にも丁寧に説明、確認をする。
- ③教員間でも頻繁に声掛けをしながら、相談しやすい雰囲気をつくっていきたい。
- ④学級通信での情報共有、細やかな家庭連絡を行うことが大切であり、良かったことや助けてもらったことなどを伝えることを心掛ける。全員に学期ごとの友だちからのありがとうメッセージを三者懇談で渡す取り組みを続け、伝統芸能についての学習など地域との交流の場を設定したい。
- ⑤要望に応えられない部分は、理解していただけるようきちんと話をしていく。生徒に

は、地域の一員であるという自覚をもたせ、指摘があった際はその都度話をしていく。
どこにいても湯梨浜中の一員であるということを部活動等をとおして指導を行う。話
ができる機会を確保する。

- ⑥学校だより、学年だより、学級だよりなどを通じて今後も保護者に学校のようなようすを伝える。
- ⑦ミスがないよう複数の目で点検することも大切ではあるが、熱意を持ちながらも「文章の目的（誰に何を伝えるための文章か。）」、「客観的な視点（第三者が読んでどう思うか。）」を忘れない。
- ⑧P T A活動を徐々に再開し、さらに積極的な情報発信と意見交換を行う。各たよりは信頼関係を強める内容になっているか吟味する。来校者アンケートを実施する。保護者とのコミュニケーションを取り合い、伝達事項などの漏れがないように注意し、適宜連絡や情報を発信していく。
- ⑨職員が共通理解し、外部からの対応ができるようにしておく。2学期は文化祭や運動会があり、保護者や地域の方が生徒を見る機会が多いので、そこでよりよい活動にしていけたらと思う。
- ⑩コロナが落ち着いたら、学校公開日や公開週間などを設けて、保護者だけでなく、地域の方も学校や授業の様子などを見ていただける機会を持つ。
- ⑪行事がない中でも、通信の中で学校のようなようす、生活の様子を発信を継続して行う。終学活などに学校だよりを読む時間などを設けて生徒も保護者に対して学校のようなようすを話せるようにする。

5 その他

- ①生徒のよりよい学校や生活にしたいという意欲を高め、具体的な行動に移させていく。
そのために生徒会を中心に行事はもちろん、日常の生活を見直したりする企画や部活動の激励会などを充実させ、学校への所属感や自己肯定感を高めることができるような取り組みを実施する。
- ②学習規律の徹底、校内の美化について、生徒会活動を前面に出しながら、自分たちで点検し、改善していけるような取り組みをしていく。
- ③時間外勤務の削減への取り組みについて、2学期は行事等も多くなり、さらに時間外勤務が増えていくことが予想される。本当に必要なこととそうでないことを精選して、これまでの発想からの転換を図り、削減に向けてできることを行う（職員の健康を保つためにも）。
- ④自己の指導力の向上に努めるために、・協同学習、・生徒の主体性の向上（新学習指導要領に即して）、・明確な数値目標の達成がある。
- ⑤コロナ対策に関わって、1学期の進捗状況の確認、校や他地域の動きを確認し、早め早めに校内で検討する機会を設定していく。
- ⑥学習規律の徹底と共通理解（分離礼、声の大きさ、姿勢や敬語、集会の出入り）、教員サイドの意識の向上を図ると同時に、学年集会などで啓発する。（生徒会や部活動での取り組みの強化）
- ⑦相手の気持ちに配慮しての言動の大切さを伝え、実行力の育成、間違ったことを許さ

ない姿勢と生徒の良さを褒める姿勢の共有。短学活を活用しながら振りかえりの場を設ける。

- ⑧学級、学年の枠を越えた実践共有：縦割りなど、学年の枠を越えて教員同士が刺激を与え合ったり、情報共有を進めたり取り組みの共有をする。生徒が学習に主体的に取り組んでいけるような授業・学習環境づくりについて、準備物や2分前着席など、学習に向かう姿勢を整える。
- ⑨生活記録ノートをきちんと書いたり、日頃の生活で時間を意識して行動したりさせる。そのような学習環境を整えて学習に向かわせる。また、家庭学習の大切さをテスト期間だけでなく日頃から話していき、保護者の方へも通信等で理解していただく。
- ⑩一人一人が集団の大切な一員として認められ、個性が発揮できるように、運動会や文化祭などの機会を活かして、認め合い、協力し合う仲間づくりをすすめたり、ふりかえりを確実に行う。
- ⑪生徒一人一人が考えや意志を持ち、行動に移すことができるような指導・支援：日々の授業の中で、「自分で考える時間」や「最終的に自分がどう考えるかを見つめる時間」の確保を徹底する。
- ⑫個々が考えたことを共有し、認め合う活動を行う。生徒の意欲に応える課題設定や支援、授業準備をしっかりと力をつけさせたい。個別の事情に配慮しながらも全体をそろえていきたい。
- ⑬時間前着席（どのクラスも教員も）、美化、あいさつをやりきる。協同学習の推進と授業規律の徹底と相談室登校の生徒の授業参加について、授業の規律をもう一度見直し、授業内容を精選するとともに相談室登校生徒も授業に参加できる雰囲気や、補完できる時間や取り組みを考える。
- ⑭学校行事、参観日等で学校の現状を理解していただくために、例年とは違う形での行事開催となるので、変更の主旨を理解していただく。開校間もない学校であるので、さまざまな建設的な意見をもらって学校運営に役立てていく。
- ⑮はじめのある学習とするために、時間・聞くと、話すときのはじめのある授業の展開。
- ⑯遅刻や欠席が多い生徒が少しずつ増えており、家庭との連携を取り、どのような方策が立てられるか詳しく決めて実行する。
- ⑰全職員で決めた取り組むべき事は、全職員で取り組む。それぞれの意見の吸い上げと課題や成果など共有するため、運動会や文化祭などの大きな行事もあるので、授業中や部活動での生徒のようすや生徒会の動きなどいろいろな部分で情報の共有を行う。
- ⑱定期的に情報共有の時間をつくったり、C4th の機能を活用する。I C T機器導入に伴う職員研修、行事の見直しを行う。9月以降にI C T機器が整備される予定だが、教職員が使いこなせていない。I C T機器を取り入れた授業方法の研修が必要、情報教育担当と支援員だけでは進まない。
- ⑲P T A役員、学校運営協議会委員等色々な方の意見をいただき行事の見直しを図る。
- ⑳授業中に伏せてしまう生徒や学習に取り組めない生徒をなくすために、限られた時間の中で、生徒全員が参加できる授業をつくっていく。授業に集中できない生徒に対して、教員全員がねばり強く必要に応じて個別に声かけをする。頑張っている生徒が評

働かれる仕掛けや指導をしたい。

- ②①コロナで先が見えない中での学習や活動の精選を行う。その中で生徒主体でどのような活動が行えるのか。家庭学習の方法を教師間で共有し、子どもたちにも分かりやすいように提示を行う。
- ②②良い取り組みがあれば表彰を行うなど、生徒の意欲向上につなげる。積極的に学校での取り組みを発信し、家庭も巻き込んで、学校、学年、学級づくりを行う。そのために、学校だよりや学年だよりを活用し、保護者とのつながりを強化する。
- ②③コロナ禍の中で、生徒一人一人が活躍できる場を学校全体や学年・クラスで考え、大きなイベントでなくても心がほぐされるような学校づくりを進める。学校が楽しいと思える生徒を増やすために生徒が主体的に活動できる工夫をする。共通の課題で互いに高めあえる関係性をつくる。